

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1 ○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	「地域に根差し、知恵と工夫と創造力を持ち、ゆったりとした毎日が過ごせるよう、ひとりひとりの楽しみと健康と安全を考慮しながら、家族の協力を得つつ学び支えます。」 職員全体で意見を出し合い、上記理念を作成した。		
2 ○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	常に理念を念頭におき、報告 連絡 相談の徹底。 小さな変化を見逃さず、それに気付ける一人ひとりになる。 ケアカンファレンスを行い、個々に合ったケアプランを作成し日々のケアにつなげている。	○	日々の引き継ぎや申し送り、毎月のユニット会議や勉強会等で話し合い確認し、理念の共有 実践に向け取り組んでいるが、更に十分に話し合える環境を整えていきたい。
3 ○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	理念を玄関に掲示し、見学時 入居時 家族会等で随時伝えている。 更衣室、スタッフルームにも理念を掲示し、職員の意識向上にも努めている。 地域向けの広報誌を発行し、見学 ボランティアの受け入れを行っている。		
2. 地域との支えあい			
4 ○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	地域向けの広報誌を発行し、外出時には積極的に挨拶をすることを心掛け、近所の理髪店やコンビニ、スーパー等を利用している。また、ホームの農園で収穫した野菜や、お彼岸にはおはぎを入居者と一緒に届ける等の付き合いを大切にしている。 マンションのため物音等で迷惑を掛けないよう気を付け、確認するように努めている。		
5 ○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	町内会の活動・行事…総会 ゴミ拾い 北海道神宮際 子供会主催の夏祭り 近所の保育園の運動会等に参加している。 毎月の勉強会を、地域の会館を借りて行っている。	○	今後も地域の活動や行事に、参加する機会を増やしていきたい。
6 ○事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	6月に地域向けの広報誌を発行し、見学 ボランティアの問い合わせ、ウェス等の寄贈があった。毎週地域の方が(独居の方、高齢者の方)ボランティアに来て下さり共に楽しい時間を過ごしている。	○	ホーム便りの発行を継続し、ホームのことを知ってもらおうと共に、地域の人達 との交流に努めていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	職員全体で自己評価を行った。理念をもとに振り返る機会となり、それによって課題、改善点が明確になり今後につなげていくことができた。また、第三者の目を通しての意見を聞くよい機会と思っている。		
8 ○運営推進介護を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	偶数月の第二水曜日、午後一時から運営推進会議、終了後に家族会を行い、報告、情報交換、意見交換、質問の場として定着した。その内容を職員へ報告、共有し日々のケアに役立てている。欠席されたご家族へは書面にて報告している。		
9 ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	札幌市の管理者会議、中央区グループホーム管理者会議に出席し連絡調整を行っている。札幌市より知らせのある研修会や勉強会にはできる限り参加している。		
10 ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	ホームの勉強会に於いて、学ぶ機会を設けた。	○	今後も研修会や勉強会に参加し学ぶ機会を増やしていきたい。
11 ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがない要注意を払い、防止に努めている。	ホームの勉強会にて取り上げ、日々のケア 関わりを振り返り学ぶ機会を設けた。入居者の身体の変色や傷など記録へ記載し、引き継ぎや申し送り等で確認合っている。	○	職員がストレスを抱え込まないよう、日々の思いや悩みを話し合える場を増やしていきたい。
4. 理念を実践するための体制			
12 ○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約、解約時には重要事項等で説明し、十分な話し合いを心掛けている。		
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	意見、不満、苦情等は都度受け入れ、迅速な対応を心掛け改善に努めている。直接意見、不満、苦情等を伝えることの出来ない入居者の思いは、表情や日々のコミュニケーションの中からそれらを読み取るよう努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	面会時、家族会、毎月発行のホーム便りを通して、都度状況等については詳しく伝えている。また、必要に応じては電話連絡を行っている。小遣いは預かっていないため、金銭管理の報告はなし。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご家族へ尋ねること、話しやすい雰囲気作りに努め、都度受け入れ対応している。また、家族会にてそのような場を設け改善に努めている。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月のユニット会議に於いて、意見交換を行い反映させている。また、必要に応じ直接聞く機会を設けている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	ご家族の要望、入居者の重度化に伴い7月より夜勤三人体制で対応している。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	入居者が互いのユニットを気軽に行き来する機会を作り、また互いのユニットでの勤務の機会もあり、馴染みの関係が作られていると思う。昨年の外部評価から今回まで離職者なし。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	採用時の研修。 毎月のホーム内勉強会。 法人外の研修に於いては、希望者 必要と思われる職員に参加を義務づけている。 研修後はレポートを提出、ユニット会議にて報告し内容を共有している。		
20 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	管理者連絡会、研修会、勉強会に参加し、意見交換や情報交換を行い、個々のスキルアップにつなげ日々のケアに役立てよう努めている。		
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	心身共に十分に休める勤務体制と、職員間でのコミュニケーションをはかり、個々の話を聞くことを心掛けるも難しい場合もある。	○	一人ひとりの職員と十分に話し合える時間を設けていきたい。
22 ○向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。	ユニット責任者からの報告、現場での把握が行われている。	○	各職員の努力は給与や賞与などで反映している。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23 ○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	現入居者に於いては、家族が希望しての入居であり、入居後本人の思いや願いを聴き、伝えられない入居者の方は、日々のコミュニケーションや表情などから、それらをくみ取り受け止めるよう心掛けている。		
24 ○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	問い合わせ、見学、契約に至るまで、またその後も都度話し合うことを心掛け、安心してもらえよう努力している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居を希望されての方がほとんどのため、見学の際によく話を聴き、利用者さんの現状を把握し、できる限りの情報を提供している。		
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	ご家族の都合で入居を急いでいる場合がほとんどのため、歓迎 受け入れの雰囲気作りに努め、一日も早く馴染んでもらえるよう、その方の心に寄り添う関わりを意識している。また、これまでの生活習慣やこだわり等を知り、少しずつ現状と照らし合わせたいけるよう努力している。ご家族には面会にて、不安や心配を最小限にできるよう協力を得ている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	相手をよく知る努力、大切に思う気持ち、敬うことを忘れずに、常に本人と向き合い共に過ごせる時間を大切にしている。会話や作業などを通し教えられ学ぶことが沢山ある。		
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	面会時や家族会にて都度様子を伝え、さまざまな行事の呼びかけ、参加、協力を得ながら共に喜び楽しんでもらえるよう心掛けている。また、ご家族同士が互いの入居者を支援する関係が築かれている。	○	家族との関わりを大切にし、気軽に来所してもらえる雰囲気作りに努めている。
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	機会があるごとにご家族とコミュニケーションをとり、入居者 ご家族のことをよく知ろう 心掛けている。		
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご家族の面会、行事参加、ご家族との外出、外泊など気軽に行える雰囲気作りに努めている。ご家族との外出、外食、温泉への一泊旅行、自宅への外出、外泊も行われている。		
31 ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	全員で参加、楽しめるレクリエーションの工夫。 一人ひとりの得意分野を生かした作業やレクリエーションの提供。 楽しく安心して過ごせる席の配慮。 職員が仲保となり一人ひとりを証す…などに努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
32 ○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	退去されたご家族から、礼状や年賀状が送られたり、ウェス用にと布を送って頂き有り難く受け入れている。入院により退去された方には、できるだけお見舞いに行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33 ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	自分の思いを伝えられる入居者とは、都度話し合いその思いに添えるよう努力している。伝えられない方は、日々の様子や表情から、またご家族から本人の思いをくみ取り、その思いに添えるよう努めている。		
34 ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	可能な限りの情報収集に努め、ご家族から、また入居者の日々の暮らしからそれらの把握に努めている。		
35 ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	ご家族から、本人から、日々の暮らしから、それらの把握に努め、個人記録へ言動など細かく記載している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36 ○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	本人(可能な方)、ご家族と相談しながら担当職員を中心にユニット会議でカンファレンスを行い、介護支援専門員の監理のもと、介護計画を作成している。		
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	三ヶ月ごとに見直しを行っている。また、状況の変化に伴い常に見直しを行い、本人、ご家族、職員の意見も参考に現状に合った計画を作成している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>38 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>日々の細かな記録、変化や気付き対応を個人申し送りに記載、ヒヤリハットを活用し、全職員が一人ひとりの状況や情報を共有し、介護計画の見直しに活かしている。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
<p>○事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>39 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。</p>	<p>医療連携体制を整え、毎週訪問看護師による健康管理、相談、指導、隔週の医師による往診を受けている。また、随時必要に応じて相談、往診を受けることができる。 ※ 皮膚科、歯科、眼科も同様。 入居者の重度化に伴い七月より夜勤三人体制を導入。</p>		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
<p>○地域資源との協働</p> <p>40 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。</p>	<p>週三～四回、ボランティアの方が来所され、協力を得ながら体力作りや色々な作業を共に行うことで支援している。</p>		
<p>○他のサービスの活用支援</p> <p>41 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。</p>	<p>福祉用具の活用をご家族に提案、購入にあたり福祉用具専門員の方に相談、支援を受けている。</p>		
<p>○地域包括支援センターとの協働</p> <p>42 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。</p>	<p>運営推進会議にて情報交換を行っている。</p>		
<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>43 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p>	<p>毎木曜日に訪問看護師による健康管理を受け、都度報告 相談を行っている。 かかりつけ医(静明館診療所 五十嵐医師)による24時間往診可能な体制をとっている。 ※ 皮膚科、歯科、眼科も同様。</p>		
<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>44 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。</p>	<p>慈恵会病院、静明館診療所との提携により、定期受診 定期往診の実施。また、状況に伴い必要に応じての受診 往診を行っている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
45 ○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	毎木曜日に訪問看護師による健康管理を受け、都度報告 相談を行い指導を受けている。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院時には介護添書を提出し、随時面会に行き病院関係者から報告を受け情報交換を行っている。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	介護計画見直し時、体調の変化時など、都度ご家族と話し合い意向を確認し、主治医にも報告している。また、緊急時のご家族の意向を一覧にし職員間で方針を共有している。		
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること、できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	介護計画見直し時、体調の変化時など、都度ご家族と話し合い意向を確認し、必要に応じて主治医とも話し合い、ホームで対応できること、できないことを伝え、今後について決めていける体制をとっている。	○	ご家族の思いは状況の応じて変化が見られる。都度、状況を伝え意向を確認し、主治医と話し合う場を設けていきたい。
49 ○住替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	馴染みの家具などを持ち込んでもらい、できるかぎりの情報を収集し職員間で共有し安心してもらえる関わりを心掛けている。ご家族の協力(面会など)を得ている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重			
50 ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	入居時に個人情報保護に関する説明を行い「個人情報同意書」を得ている。勉強会でも取り上げ、常に相手の立場に自分を置き換え、意識、注意して関わることを心掛けている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	相手を理解しようとする努力を怠らず、説得ではなく納得理解してもらえるよう一緒に行動し、本人の願いや思いをくみ取れるよう努力している。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	できるかぎり本人の思いに添えるよう支援している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	近所の理髪店で散髪をする。定期的に訪問カットを受ける。洋服を一緒に選ぶ。外出時(行事)にお化粧をするなど支援している。		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事が楽しみになるよう献立、食器、盛り付けなどを工夫している。珍しい食材の時は事前に見てもらい楽しみにしてもらっている。準備や片付けなどは納得のもと一緒に楽しい会話の提供も心掛けている。	○	変化のある献立の工夫をし、時には珍しい食材を使い楽しんでもらえるよう努めている。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	必ずおやつ時間を設け楽しんでもらっている。行事の際にはお酒も楽しんでもらっている。また、希望を伝えることのできない入居者には、食の進み方などで好みを見つめるよう努めている。※ 現在、喫煙者はなし。	○	本人の希望を取り入れながら、嗜好品を楽しいホーム作りに活かしたい。
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	日中、ほとんどの方が布パンツを着用し、個々の排泄パターンを把握し排泄のサインを見逃さず、声掛けの工夫と適時の誘導でトイレまたはポータブルトイレでの排泄につなげている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	体調や気分に応じ、または汚染などで必要時に臨機応変に対応できるよう支援し、ゆっくりと楽しんで入浴できるよう心掛けている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、安心して気持ち よく休息したり眠れるよう支援 している。	生活リズム、体調を把握し、休息 臥床を促し支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの 支援 張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生活 歴や力を活かした役割、楽しみ ごと、気晴らしの支援をしている。	一人ひとりに合った会話、作業、 レクリエーション、趣味の提供。 共に楽しい時間を過ごせるよう 意識し支援している。		
60 ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの 大切さを理解しており、一人ひと りの希望や力に応じて、お金を 所持したり使えるように支援し ている。	ホーム立替え後日請求で対応のた め、買い物に出掛けた際に支払 いなどを支援している。		
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一 人ひとりのその日の希望にそ って、戸外に出かけられるよう 支援している。	夏場はできるかぎり、短時間でも 戸外に出掛けられるよう(散歩、 買い物など)機会を設けている。 また、ドライブなどで季節を感 じてもらえるよう支援している。		
62 ○普段行けない場所への外出 支援 一人ひとりが行ってみたい普段 は行けないところに、個別ある いは他の利用者や家族とともに 出かけられる機会をつくり、支 援している。	外出行事など、ご家族と入居者全 員が参加できる機会を工夫して いる。四季折々の季節を感 じてもらえるよう地域の行事に 参加、ドライブなどにも出掛けて いる。個別にはご家族との外出、 外食、温泉への一泊旅行など行 っている。		
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電 話をしたり、手紙のやり取りが できるように支援している。	本人の希望のもとで行っている。 ご家族からの電話の取りつきな ども支援している。		
64 ○家族や馴染みの人の訪問 支援 家族、知人、友人等、本人の 馴染みの人たちが、いつでも 気軽に訪問でき、居心地よく 過ごせるよう工夫している。	いつでも歓迎している。来所し やすい雰囲気作りを心掛け、 訪問時には本人とゆっくり過 ごせる環境に配慮している。		
(4)安心と安全を支える支援			グループホームさとほろ(4階 自己評価表)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	勉強会で取り上げ、一人ひとりが意識して日々のケアに取り組んでいる。		
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	日中、夜間共に開放している。居室も希望者なく開放している。		
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	一人ひとりの危険に対する認知度を把握し、所在の確認とこまめな巡回の徹底。死角になる場所もあるため常に職員間で連携をとり、安全確認を行っている。また、入居者の体調 気分の変化にも注意している。		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	個々の危険に対する認知度を把握し、十分に注意し対応している。		
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	実例をもとに勉強会で取り上げ、学ぶ機会を設けた。ヒヤリハットをもとに事故につながらないよう検証している。入居者と一緒に避難訓練を実施した。	○	正しい知識の理解と、定期的に訓練を行ってほしい。
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	マニュアルを設置、勉強会で取り上げ定期的に取り組んでいる。		
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	9/29に入居者と一緒に避難訓練を実施した。ユニット会議で、シュミレーションを確認し合った。	○	今後も定期的に避難訓練を実施してほしい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	常に、ご家族に起こりえるリスクについて伝え理解を得ている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	個々の体調を把握する。 小さな変化を見逃さない。 こまかな申し送りの徹底。 必要に応じて医師に連絡 相談し、指示 往診を受けている。		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	処方箋を必ず読み、理解した上で対応している。	○	常に細かい引き継ぎを徹底し、状況の応じ医師に相談、指示を受けている
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	一人ひとりの排便リズムを把握し、飲食物の工夫と可能な範囲での運動を取り入れ、便秘予防に努めているも高齢や重度化により自然排便が難しい方が増えているため、医師の指導のもと服薬調整を受け対応している。		
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	可能なかぎり毎食後に口腔ケアを行っている。 希望者は毎火曜日に訪問衛生士による口腔チェック、口腔ケアを受けている。		
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	栄養のバランスを考えた献立を立て、各入居者に応じた総カロリーにしている。 水分の記録を行い不足状況を把握し、種類を変えるなどの工夫で必要分を確保できるよう促している。		
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	各マニュアルの設置。 うがい、手洗いの実践。 除菌、消毒、消臭の実施。 10月に、インフルエンザの予防接種を全員受けた。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
79	<p>○食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	<p>包丁、まな板、布巾などの調理用具の消毒を頻繁に行う。</p> <p>食材は新鮮で安全な物を購入し使用している。</p> <p>食べきれぬ量だけを作るよう心掛けている。</p> <p>食中毒早見表を掲示している。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	<p>○安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	<p>マンション花壇の整備を、ボランティアの協力を得て行った。</p> <p>玄関は季節に合わせた装飾や、鉢植え、花などで工夫している。</p>		
81	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>一人ひとりの笑顔の写真を掲示し、季節ごと、行事ごとの装飾を工夫し、入居者の作品を掲示し居心地良く過ごせるよう配慮している。</p>		
82	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>建物の構造上、難しい面もあるが、できるだけ思い思いに過ごせるよう椅子やソファを置き臨機応変に居場所の移動による工夫をしている。</p>		
83	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>家具や装飾品など自宅で使用していた物を持ち込んでもらい、本人の生活しやすいように工夫している。家族の写真やお孫さんの描いた絵やカレンダーなどでも心地良い空間を作っている。</p>		
84	<p>○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	<p>随時、換気、消臭を行っている。</p> <p>各居室、共有スペースには温、湿度計を置き、都度チェック、調節を行っている。</p>		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している。	建物の構造上、難しい面もあるが、個人に合わせた居室内の配置やベットや椅子の高さの調節。手すりの設置(トイレ、浴室、廊下、玄関、居室)などで安全 自立を意識して工夫している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	常に、一人ひとりに目を向け話し、その人に合った関わりを意識し、残存能力を發揮できるよう支援している。		
87	○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	夏場、マンション前で日向ぼっこをし、地域の人と気軽におしゃべりをした。ベランダにプランターなどで花壇を作っている。	○	室内での生活が多いため、目に癒しを与えたい。

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんど掴んでいない ① 自分の思いや願いを表現される方が少ないため、日々のコミュニケーションや表情などから、くみ取る努力をしている。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	① 毎日ある ② 数日に1回程度ある ③ たまにある ④ ほとんどない ① 常にそうあるよう意識し、わずかな時間であっても、一対一の関わりを心掛けている。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない ② 本人の意思を尊重し、その日その時の変化に応じるようにしている。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない ① 楽しい会話や笑顔が見られる。
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない ② 本人からの希望は少ないが、外出することで気分転換になり、楽しんでもらえるよう努めている。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない ② 協力病院、提携病院、訪問看護師などの環境を整えている。
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない ① 一人ひとりをよく知ることを心掛け、チームケアで取り組んでいる。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	① ほぼ全ての家族 ② 家族の2/3くらい ③ 家族の1/3くらい ④ ほとんどできていない ① ご家族の面会は頻回にあり、コミュニケーションは十分に取れていると思う。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	① ほぼ毎日のように ② 数日に1回程度 ③ たまに ④ ほとんどない ① 家族の面会は頻回にあり、ボランティアさんの来所も多い。

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない ② 民生委員さんを通して相談や問い合わせがあった。
98	職員は、生き生きと働けている	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない ② 職員同士協力し合って、チームケアに取り組んでいる。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない ② 笑顔が見られ、会話を通して心を開いていると感じる。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない ② 職員の経験の差など多少の不安はあると思うがおおむね満足されている

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載) 生き生きとした表情で毎日を暮らせるよう、体調管理に留意し、楽しいレクリエーションや作業提供にて 残存能力を発揮できるよう支援している。